

第2章 武蔵野線(東川口～府中本町)

第1節 東川口～新座

2021年9月26日(日)曇り／時々小雨、武蔵野線(府中本町～西船橋：71.8 km)の東川口から新座までの営業キロ19.5 kmにリベンジする。この路線は、2001年4月～5月にかけて踏破済である。しかし、当時の歩きは、歩いた区間と日時を記載した概略メモはあるが、APS時代のため経費面から立ち寄り駅舎の写真や到着時間の記載がない路線や駅舎がある。このような不備は、カッシー館ブログでご紹介している”PDFによる日本横断歩き鉄の旅シリーズ”を計画した際、駅舎立ち寄り時刻の記載や沿線の各駅舎写真を抽出する事前調査で判明した。本日の路線は、日本横断歩き鉄の旅シリーズの第22編(武蔵野線・京葉線)で搭載を予定している。

また、この路線はわいわい会(高松一高同窓の歩き会)でも、次の通り実施。しかし、コロナ禍で中止した区間がある。本日の歩きは、わいわい会主幹事としてそのリベンジでもある。昨日が第83回わいわい会の予定日であったのを思い出し、本日の歩きを急遽思いついた。

わいわい会の実現状況				
日時	わいわい会No	実施可否	区間	営業キロ
20181201 土	72回	○	南流山～東松戸	8.6
20190302 土	73回	○	東松戸～西船橋	7.8
20190921 土	75回	○	南流山～越谷レイクタウン	9.1
20191130 土	76回	○	越谷レイクタウン～東川口	7.1
20200307 土	77回	×	東川口～武蔵浦和	9.4
20201001 土	79回	×	武蔵浦和～新座	10.1
20201203 土	80回	△	新座～新小平	12.3
20210306 土	81回	×	新小平～府中本町	7.4

○は実施、×はコロナ禍で中止、△は別コースで実施

本日のコースは冒頭で記載の通り、踏破済であるが、20年余経過のため全く記憶なし。ただし、微かに荒川越えに苦労した記憶が残っていた。本日の歩きは、20年前に歩いた区間もあり、事前調査や地図なしで臨む。そのため、地元の人に助けて頂くケースが多々発生した。本日の到着時刻は次の通り。

東川口（9:20）～東浦和（10:45）～南浦和（11:56）～武蔵浦和（12:52）～西浦和（13:37）～北朝霞（15:55）～新座（17:05）

①本日は登戸駅から南武線で府中本町まで移動し、そこから武蔵野線で東川口駅まで移動する。府中本町で8時26分発の”むさしの号（大宮行き快速）”に乗車する珍しい機会に出会う。武蔵野線で快速登場は新しい発見！！この快速は府中本町から北朝霞までは各駅停車であったが、北朝霞から武蔵野線の軌道を外れ、ノンストップの大宮行きとなった。それ故、北朝霞から乗り換えが必要であった。



※東川口駅

②東川口駅に到着するや、第76回わいわい会（2019年11月30日（土））で上がりとなった懐かしい思い出が蘇る。10分位堪能した後、東川口駅を目指す。今日の歩きは、武蔵野線の独特の駅舎ネーミングの頭に東西南北が付く駅舎の

オンパレードとなった。本日は地図を持参しない歩きであったので、”鉄道案内人”である電柱や線路を適宜確認しながら進む。9時53分、24歩ある二つ橋（見沼代用水路東縁）を渡る。その先に川口自然公園があった。9時57分、見沼橋を渡る。10時2分、鉄道を跨ぎ、鉄道の左側となる。もうそろそろ東浦和駅と思ったが、ここから東浦和駅遠し。地元の人のお世話になり、右往左往しながらの歩きとなる。武蔵野線はかつて貨物路線であったこともあり、鉄道に沿った幹線道路がない。それ故、鉄道案内人と第六感を頼りに、くねくねした路地をつなぎながら歩くことを余儀なくされ、終日にわたり歩きの醍醐味を楽しむことになる。



※二ツ橋、川口自然公園、見沼橋



※水神社、東浦和駅

10時30分、水神社に本日の安全を祈願する。その先にある80歩ある八丁橋（芝川）を渡る。見沼橋界隈で教えて頂いた通り、幹線道路に武蔵野線が道路下で交差していた。やっと本日最初の東浦和駅（10時45分）に到着する。少し無駄な動きもあり、営業キロ3.8kmに1時間25分要する。

③東浦和駅から鉄道の右側を歩く。11時15～11時28分にかけて、”行き止まり”という看板を見て、鉄道の左右を歩くという無駄な動きをする。11時38分、高架したJR線下を潜り、鉄道の右側となる。11時40分、135歩ある上きつね橋（藤右衛門川）を渡る。11時47分、JR線を潜り、鉄道の右側となる。道なりに歩いた先に南浦和駅（11時56分）があった。駅前には、2019年11月30日（土）、第76回わいわい会の二次会で立ち寄った、懐かしい”不道家”があった。12時少し前に東口から西口に移動する。運よく12時少し前であったため、生蕎麦いろり庵”きらく”に立ち寄りランチタイムとする。



※南浦和駅への路



南浦和駅（東口）、駅前の懐かしい”不二家”



※東口から西口に移動、昼食の蕎麦屋、南浦和駅（西口）

④南浦和駅から京浜東北線に行かないよう用心して歩く。しかし、何となく大回りをしたのか、営業キロ 1.9 km にランチ時間を含め 56 分要する。今でも不思議なのは、鉄道が右手にあると思っていたのが、いつの間に左手にあった。後で確認したところ、トンネルがあった。ここでも何人かの人に聞いて武蔵浦和駅を目指す。埼京線が合流する武蔵浦和駅には 12 時 52 分到着。



※武蔵浦和駅への路、武蔵浦和駅（東口）



※武蔵浦和駅（西口）、武蔵浦和駅界限

⑤鉄道案内人とナビを時々確認しながら西浦和駅を目指す。13時24分、御嶽神社がある。100m位異なる道筋に進んでいた。地元の人々の助言により、引き返し交差点を左折する。道なりに歩いた先に西浦和駅（13時37分）があった。この駅は20年前歩いた際の起算駅と終点駅であったので、微かに印象に残っていた。



※御嶽神社、西浦和駅

⑥西浦和駅から北朝霞駅の間には、荒川を横切っており、迂回を余儀なくされた。13時58分、万歩計で163歩あるさくら草橋を渡る。その先に荒川があり、直進すべきか左折すべきか右往左往する。ここでも地元の人にお伺いし、左折していたのを中断し引き返す。大正解。荒川の土手にぶつかり、その土手を越える橋がないからである。国道を下りて、14時14分、桜草公園エリアに入る。この公園を通り抜けして、公園から上空70m位ある道路に出ようとするが、そのルートはないと判明。止むも得ず引き返す。15分位ロスタイムが生じる。14時30分、幹線道路に戻る。14時33分から14時48分にかけて、万歩計で1,809

歩ある秋ヶ瀬橋（荒川）を渡る。改めて野性的で広大な荒川に驚いた。この広大さは途轍もない豪雨にも耐えられると錯覚もした。しかし、秋ヶ瀬橋は長かった。歩いて歩いて到着しなかった。



※さくら草橋、荒川、桜草公園案内図



※桜草公園、高架の道路、幹線道路に戻る



※秋ヶ瀬橋、秋ヶ瀬橋から見える JR 線

第六感から、鉄道から 1 km 離れていたのが鉄道に近づくため、橋を渡った先の信号を左折する。大正解であった。14 時 53 分、志木市から朝霞市となる。14 時 58 分、前方を府中本町方面に向かう電車を見つけ安堵する。しかし、ここから北朝霞駅遠し。15 時 5 分、JR 線下を潜る。15 時 17 分、197 歩ある新盛橋（新河岸川）を渡る。15 時 29 分、朝霞念法寺があった。15 時 31 分、県道 266 号（ふ

じみ野朝霞線)の道路標識前を通過。この”ふじみ野”という地名は、微かな記憶に残っていた。近くに朝霞第三小学校があった。15時43分、JR線を潜って鉄道に沿って歩いた先に北朝霞駅(15時55分)があった。東武東上線の朝霞台駅が合流していた。この駅は武蔵野線踏破以外にも2004年5月8日(土)東武東上線(鶴ヶ島～朝霞台:20.8km)の踏破の際に立ち寄ったことがあり懐かしくなる。



※志木市から朝霞市、新盛橋、朝霞念法寺



※北朝霞駅



※北朝霞駅、東武東上線朝霞台駅

⑦高架下を暫く淡々と歩く。新座駅への道筋は簡単と思ったが、路に迷うことはなかったが、要所要所で鉄道路線を確認しながら進む。仕上げの難しきで、何人かのお世話になり、17時5分、新座駅に到着する。駅前には水車があった。17時14分の新座発の府中本町行きの電車に乗り家路に向かう。自宅には18時58分到着。本日はわいわい会2回分をメンバーに代わって踏破でき、多少なりとも不燃焼感を一掃でき、自己満足する一日となった。



※新座駅



※新座駅



※新座駅、府中本町駅(南武線)

第2節 新座～府中本町

2021年10月23日（土）快晴、武蔵野線の新座駅から府中本町駅までの営業キロ19.7kmに挑戦する。



※新座駅

本日の歩きは、2001年5月4日（木）のリベンジでもある。当時は今のように、緻密に駅舎到着時刻や駅舎写真などを記録していなかったため、本日の再挑戦となった。記録の大切さを骨身に感じる一日であった。この時は、西浦和駅から府中本町駅までの27.8kmを歩いた。しかし、20年の歳月の段差は大きく、当時どこをどのように歩いたかは、全く私の記憶から消滅していた。記録文を読み返し、多少当時の記憶が蘇る。概要は西浦和まで武蔵野線で移動し、9時半頃到着。そして、府中本町には18時半過ぎに到着（万歩計で6万5千歩）とあった。ただ、本日の駅舎立ち寄りで、唯一新秋津駅だけは微かに記憶に残っていた。



武蔵野線は”日本横断歩き鉄の旅”の第22編（武蔵野線・京葉線）PDFの投稿を予定している。また、わいわい会（高松一高同窓歩き会）でも、第80回（2020年11月28日（土）：新座～新小平）、第81回（2021年3月6日（土）：新小平～府中本町）で歩きを予定していた。しかし、コロナ禍の状況を勘案し、中止とした。メンバーの残念な思いを代表して、リカバリーさせて頂いた。



※沢山の鉄道が武蔵野線に合流

本日8回目のリベンジ歩きで、武蔵野線（府中本町～西船橋：71.8 km）は2回踏破となった。これで通算営業キロは、**1万2千658 km（歩き日数616日：日本の鉄道の45.7%）**となった。同時に暦年記録更新中で通算営業キロは1,066km(50回)となった。

武蔵野線はかつて貨物路線のため、鉄道に沿った路筋が少ない。また、本日の路線はトンネルに入り、鉄道の進行方向が掌握できない箇所が多かった。それ故、ネットで事前勉強をしたが、余り効果がでず、第六感による歩きが軸となった。本日の各駅舎立ち寄り時刻は次の通り。

新座（9:47）～東所沢（11:30）～新秋津（12:30）～新小平（14:37）～西国分寺（15:58）～北府中（16:40）～府中本町（17:08）

①新座駅から少し歩いた先でいきなり陸橋。この先で地図の解釈を誤り、誤った方向に進行しようとする。何回かの袋小路にぶつかり、中々東所沢駅方面

に進めず。それで、地元の人々の応援を得てやっとリカバリーできる。「この道をいくら進んでも東所沢駅には行けません。新座駅に戻ってから再度進行して下さい」と。20分位ロスタイムが生じる。これを受け、10時5分、踏切に沿った路筋がないと判断した方向に進む。これまでの実績から、鉄道脇には、意外に鉄道に沿った路筋が繋がっている。今回もそのような事例であった。反省また反省の瞬間であった。運よく鉄道に沿って幹線道路が続いて、10時7分、不二家埼玉工場前を通過。広大なJR貨物ターミナルが新座駅界隈にあった。10時13分、府中本町方面に向かう特急車両と対面。



※新座駅会界隈、いきなり陸橋、武蔵野線沿いに出る



※柳瀬川通り、城前橋から武蔵野線が見える、本日の安全を祈願

10時22分、鉄道に沿った路筋が終わり、柳瀬川通りを歩く。暫く歩いた先で十字路があり、直進すべきか右折すべきか迷う。運よく地元の方と対面でき、右折の道筋を教えて頂く。「橋を渡った先を左折して進んで下さい」と。10時46分、55歩ある城前橋（柳瀬川）を渡る。その先に高架した武蔵野線が見え、安堵する。11時、氷川神社、東福寺の標識を見る。その先で鳥居があったので本日の安全を祈願する。ここから、東所沢駅は近いと思ったが、まだまだ遠かった。くねくねした道筋を歩く。途中、道筋を聞いたが、誤った方向に進行する。何となくおかしいと察知し、ナビで確認する。オリンピック道路を200m位誤って直進していた。正しくは十字路（本郷交差点）を左折すべきであった。この辺りの武蔵野線は地下に潜り、線路の進行方向を察知できなかった。5分位ロスタイムが生じるが、無事リカバリーできる。東所沢駅には11時30分やっと到着する。それにしても難しい道筋であった。



※東所沢駅への路、東所沢駅



※東所沢駅前

②地下にある武蔵野線の左側を歩く。しかし、いつの間にか鉄道の右側を歩いていた。11時45分、鉄道を跨ぎ、線路の左側を歩く。11時50分、安松小学校に繋がる心地よい道筋を歩く。11時56分、七五三のポスター前を通過。11時57分、安松小学校前を通過。鉄道に沿った路筋を歩く。12時、住宅街があり、鉄道に沿った路筋から途切れる。ここでも地元の人に運よく対面でき、新秋津駅への道筋を聞く機会を得る。「ここから下った先で幹線道路に出ます。それから暫く歩くとお地蔵さんがいます。そこを左折して行った先に新秋津駅があります」と教えて頂く。



※線路沿いを歩く、閑静な路地歩き、安松小学校

急な斜面を下り、教えてもらった道筋を歩く。12時14分、西武池袋線の線路下を潜る。この辺りは西武池袋線踏破の時、通過したのであろう。しかし、全く記憶になかった。お地蔵さんの交差点を左折し、直進する。再度、西武池袋線の踏切を横切る、近くにJR線とは少し離れた先に西武線の秋津駅があった。12時25分、武蔵野線を跨ぎ、鉄道の左側となる。急に辺りは賑やかになる。見覚えのある新秋津駅には12時30分到着。



※急な路地を下る、新秋津駅への路



※新秋津駅



※新秋津駅界限

③本日の中で最も長い区間を歩く。12時45分、志木街道を横切る。かつて踏破した西武国分寺線や西武新宿線が、地下を潜り走っている武蔵野線に平走していた。途中、武蔵野線から大きく乖離するので、軌道修正する道筋はない。途中、通行人の方に聞いてパニック状態になるような場面もあったが、結果的に13時39分より王道な道筋で府中街道を歩くこととなった。13時41分、東村山駅から分離した西武新宿線の踏切を横切る。



※府中街道への路、府中街道

13時50分、野口橋（柳瀬川）を横切る。八坂小前交差点先の西武多摩湖線（14時1分）を横切る。八坂駅が府中街道に面してあった。14時9分、西武拝島線を跨ぐ。それにしても、本日の区間、西武線が多いことに改めてビックリ。14時15分、ブリジストン前を通過。立派な楠の木があった。青梅街道の交差点を

左折し直進した先に新小平駅（14時37分）があった。東所沢駅や新秋津駅と異なり、この界隈の線路は、地下にあった。それ故、念のため、方向性を誤らないようにするため、地元の方に西国分寺への道筋を聞く。「府中方面ならば、府中街道を歩くのが分かりやすいですよ。直ぐ先に見える道路も直進すれば行けますが」と。



※八坂小前交差点、ブリジストン前、大きな楠の木



※新小平駅

④後者の道筋、山手通りを淡々と歩く。15時、小平市立小平第四小学校前を通過。間もなく歩くと玉川用水路に沿った一橋大南通りに出る。その先の林の道筋で右往左往する。一番目と三番目の人の助言は府中街道に近づく道筋、これに対し二番目の人の助言は府中街道から離れる道筋であった。それゆえ、行って戻りまた行くピストン運動となる。しかし、結果的には三番目の人の助言が正しかった。ウォーキングの醍醐味を存分に楽しむことができると同時に、い

い勉強をさせてもらった。ここで20分位ロスタイムが生じる。15時45分、西武国分寺線の踏切を横切る。15時52分、前方右手に高架した武蔵野線が登場する。15時58分、中央線も合流する西国分寺駅には15時58分到着する。



※山手通り、小平第四小学校、一橋大南通り



※3回ピストン運動した道筋、玉川上水



※府中街道に合流、西国分寺駅



※西国分寺駅、閑静な道筋

⑤西国分寺駅からは中央線に進まないよう用心して歩く。武蔵野線の右側を歩く。武蔵野線に沿って森林が続いていた。心地よい道筋を5分位歩く。16時21分、森林を出ると国分寺市立歴史公園があった。16時26分、JR下を潜り、JR線の左側となる府中街道に合流する。淡々と歩いた先に北府中駅（16時40分）あった。



※国分寺市立歴史公園、北府中駅



※北府中駅

⑥ここから府中本町駅は、府中街道を歩く道筋であった。16時55分、京王線を潜る。府中本町には17時8分到着。運よく、4分の待ち合わせで南武線に乗り、家路に。



※京王バスターミナル、京王線を跨ぐ



※府中本町駅



※府中本町駅、南武線ホーム（府中本町駅）